

(仮称)ねりま防災カレッジ計画(素案)に寄せられたご意見と区のお考え

ご意見の要旨	区のお考え
第1 目的および経緯	
1 目的	
<p>1 本文2行目の「防災について」の表現を、「防災・減災について」としてはどうか。 (理由)本文6行目に「減災目標を定め」とあるのを受けて</p>	<p>「減災」とは災害時における被害を低減させるための取り組みであり、災害対策において非常に重要な概念であると認識しています。しかし、本計画においては、できるだけ平易な言葉を使用し、読んだ方に分かりやすく理解していただくため、「防災」という用語を「減災」の概念を含めた広義の意味として使用しています。 ご指摘の点を踏まえ、このことを「1 目的」に脚注として加えます。</p>
第2 カレッジの基本的方向	
2 基本方針	
<p>2 災害時行動する人は知識と操作とを兼ね合わせた人が求められる。特に知識だけの人は地域で信頼が得られず災害時にリーダーの役目は出来ない。災害時近所の力を結集することが減災、救命に基本である。入校する人の今までの防災活動、特に実行動の経験、町内防災訓練参加実績などを聞き取ってほしい。短期間のカレッジ終了では区の希望はかね得ることは出来ない。動く、動かせるリーダー養成が重要である。カレッジ募集人員数不明、対象年齢、対象経験なども不明、人員だけ揃えるだけではいけない。消防団との連携なども不明。防災共同団体、理解者の増加には期待する。</p>	<p>ご指摘のとおり、地域防災力の向上のためには、実際に行動に移すことができるリーダーの育成が重要であると考えています。このことから、防災に関する知識だけではなく、正しい技術を身につけていただけるよう、今後、カリキュラム等を検討してまいります。 また、様々な年齢や経験をお持ちの方等にも広くカレッジに参加していただき、適切な講座を受講していただけるよう、習熟度別クラスを設置する等、工夫して事業を実施してまいります。 なお、日頃から消防団で活動されている方々とも、例えば、カレッジの講師としてご参加いただくこと等により十分な連携を図るとともに、将来的には消防団で活動する等、地域の防災活動の中心となって活動していただける人材を育成してまいります。</p>
<p>3 (1)の本文4行目に、「新しい通信手段」と記載されているが、「新しいアプローチ・手法」としてはどうか。 (理由)「新しい」という定義・基準が不明である。また新しい通信手段には、相当の時間をおかないと、また、もしかすると時間をおいても、デジタルデバイドを解消できない。受けられない人への配慮が必要なので、ここには馴染まない。</p>	<p>防災学習のきっかけをつくるにあたっては、通信分野の他にも様々な手法が考えられます。このことから、カレッジが行う手法について広く捉えられるよう、「新しい手法の導入も図り」に修正いたします。</p>
<p>4 (2)に「ネットワークを築きます」と記載されているが、まずは避難拠点内のネットワーク作りも重要である。各避難拠点内でのネットワークを十分に築いたうえで、全区的なネットワークを築いてほしい。</p>	<p>(2)に記載のとおり、各避難拠点内においても、防災に関わる活動をされている方々のつながりが不可欠であることから、情報交換の場や活動の場を設け、交流や連携を図ります。</p>

5	<p>(2)の本文4行目に、「交流を図るため」と記載されているが、「交流・連携を図るため」としてはどうか。 (理由)単に交流を図るだけでないと思うが、実際にはどういうことを目指して交流してもらうのか、その先も示しておいた方がよいと思う。</p>	<p>ご指摘のとおり、区民防災組織等の交流を図るとともに、連携していただくことが大切であると認識しています。このことから、ご指摘のとおり、「交流・連携を図るため」に修正いたします。</p>
6	<p>(3)の本文1行目に、「防災に対する考え方や技術」と記載されているが、「防災・減災に対する考え方や技術・手法」としてはどうか。</p>	<p>ご指摘の趣旨を踏まえ、「1 目的」に脚注として加えます。(回答1と同様)</p>
7	<p>他の避難拠点での活動状況等、様々な情報を共有できるようにしてほしい。</p>	<p>(2)に記載のとおり、区民防災組織の活性化や組織同士の交流・連携を図るため、情報交換の場や活動の場を設けます。このような場や機会を通じて、他の避難拠点に関する情報の共有化を図ることができるようにしていきます。</p>
<p>3 機能</p>		
8	<p>3～8ページについて、全体のトーンとして、学ぶ人も教える側(講師)も、「防災に関する活動を既にしていらっしゃる人」に重きが置かれている印象を持つ。 地域防災力をあげるためには、防災に関する活動をしていない人など、あらゆる人を巻き込んでいくことが求められる一方、防災に取り組んでいない方でも講師として適切なケースがみられる。例えば、災害時要援護者になりうる方や団体(障害者、外国人、小さな子どもや介護の必要な高齢者がいる家庭など)、また普段からそうした方をサポートしている個人(民生委員やケアマネージャーなど)、組織・団体(養護学校や施設、幼稚園・保育園、小・中・高・大学校、福祉・介護施設や福祉団体・NPO)は、こちらから提供するとともに、逆に学ばせていただくことも多くある。例えば、目が見えない方が普段どのように情報を得ているか、様々な障害に応じた避難・避難生活時の配慮の仕方などといったことである。</p> <p>また、災害時要援護者の取り組みに関係のある、福祉活動をしている民生委員や町会・自治会、管理組合、あるいは介護事業所の方などは、「すでに防災に取り組んでいる方」に当たらないと狭く理解してしまう可能性があるため、そのあたりも配慮し、計画を読んだ人が自分自身に関係あると認識してもらうためにも、そうした視点やキーワードを文章中に、ぜひちりばめてほしい。 例えば、3ページ(4)(5)の本文、7ページの第4の1など</p>	<p>3ページの「3 機能」の(1)において、「防災活動における多様な人材を育成するために、区民の様々な立場・役割・目的に応じて人材を育成し、その活動を支援します」としていますが、さらに、(5)において、「区民防災組織と地域の企業、他の分野で活動する団体など、日ごろあまり交流する機会がない団体同士が交流・連携する場や機会を提供します。」に修正いたします。 なお、これらを踏まえて、7ページの「1 講師」の(3)において、「防災以外の地域活動を行っている方やNPOなどの専門家にも協力を求めます」としています。</p>

9	(2)について、タイトルではなくてよいので、文章中に「普及・啓発」というキーワードを含めてほしい。(理由)習得することがアウトカムでなくても、様々な普及・啓発活動が求められる。	ご指摘のとおり、情報を発信するだけでなく、その情報を活かして普及・啓発を図ることが重要であることから、「区民に発信し、普及啓発を行うなど、」に修正いたします。
10	(3)について、本文1行目に「各種防災情報を収集し」と記載されているが、「各種防災情報を収集するとともに」としてはどうか。	区の災害特性などの各種テーマに基づいた調査・研究を行ううえで、区内外の各種防災情報の収集は不可欠であることから、このような記載としています。
11	(3)について、本文3行目に「防災シンクタンク」と記載されているが、「シンクタンク」としてはどうか。(理由)防災は、すべての分野にかかわってくるので、より広義な意味でのシンクタンクとすべきと考える。リスクマネジメントや福祉、医療、コミュニティの再生、まちづくりなどを含めるためにも、一般に狭い印象を持たれがちな「防災」を削除していただきたい。	カレッジは、防災の観点から、一人でも多くの区民が、災害から自分や身近な人の生命を守ることができることを目標としています。このことから、カレッジでは、基本的に防災分野におけるシンクタンク的な活動を行うこととしています。しかし、カレッジが収集し、また、調査・研究を行った知識・情報につきましては、広く、他の分野の団体等にもご活用いただきたいと考えています。
12	(4)について、本文1行目に「区民防災組織からの各種相談」と記載されているが、「区民防災組織などからの各種相談」としてはどうか。(理由)相談を受ける先として、なるべく広いキーワードとして加えてほしい。	ご指摘のとおり、防災に関する各種相談につきましては、区民防災組織だけではなく、様々な方々から受け付けることを考えています。このことから、「区民防災組織など」に修正いたします。
13	(5)について、本文3行目に「区民防災組織と地域の企業など」と記載されているが、「区民防災組織と保育園、幼稚園、養護学校、福祉団体・NPO、地域の企業など」としてはどうか。(理由)なるべく対象者を広くしてほしい。	ご指摘のとおり、交流の対象となる団体につきましては、地域の企業の他にも、幅広く考えています。このことから、ご指摘の趣旨を踏まえ、「区民防災組織と地域の企業、他の分野で活動する団体など」に修正いたします。
14	(5)について、本文4行目に「交流会を開催します」と記載されているが、「交流会、研究会、シンポジウム、訓練の場などを開催します」としてはどうか。(理由)交流は非常に狭い目的なので、可能性として様々な場の提供が視野に入っていることを示してほしい。	ご指摘のとおり、交流のための場や機会としては「交流会」だけに限定されません。このことから、「交流・連携する場や機会を提供します」に修正いたします。
15	各避難拠点において実施されている活動に対する各々の不満や悩みを話し合える場、事例を出し合える場がほしい。他の拠点で実施されている訓練に招待するなど、情報を気軽に話し合える場を提供してもらいたい。	(4)において、カレッジでは、「防災に関する地域での課題の解決への支援」を行うこととしています。ご指摘のとおり、区民防災組織同士が気軽に話し合い、情報を共有できるよう、支援を行ってまいります。
16	先行事業として実施された「防災リーダー育成講習会」に参加し、普段交流がない団体の人たちと交流ができ、地域の課題を話し合うことができた。このような交流は続けてほしい。	カレッジの開校に先行して「防災リーダー育成講習会」事業を、平成20年度から実施しています。今後とも、(5)に記載のとおり、カレッジの機能として、日ごろあまり交流する機会がない団体同士が交流・連携する場や機会を提供してまいります。

第3 カレッジの内容

2 事業内容

17	(1)について、避難拠点は区要員・学校要員により開設・運営されるので、区職員・区要員の研修だけではなく、学校要員への研修も行ってもらいたいことから、「学校要員」の記載を要望する。	ご指摘のとおり、避難拠点の運営については、区と学校職員が行うとともに、地域住民の皆様で構成される「避難拠点運営連絡会」に協力していただくことになっています。このことから、カレッジが行う研修の対象として、「区あるいは学校の避難拠点要員やその他の職員」に修正いたします。
18	5つの事業内容のうち最重要事業は「研修」の項目だと思う。充実した研修を実施するには、次の3点を十二分に検討することが重要である。 1 研修の骨格 2 カリキュラムの作成 3 講師の選定 そこで、専門部会を立ち上げ検討することが必要である。	5ページの「3 (仮称)カリキュラム検討会議」に記載のとおり、カレッジにおいて実施する各事業につきましては、学識経験者や防災の専門家等で構成される「(仮称)カリキュラム検討会議」を設置し、選定・開発することとしています。 また、7ページの「2 運営」に記載のとおり、「カレッジの運営にあたっては、区民の意見を取り入れるため、区民や学識経験者などによる運営協議会を設置」することとしています。 ご指摘の内容につきましては、このような組織において検討してまいります。
19	(2)について、「知識・技術の習得を目指します」と記載されているが、習得をするのは「学習者」で、目指すのは「カレッジ」であり、主体(主語)によれがある。「知識・技術を習得してもらうことを目指します」とした方が、文意が伝わる。	ご指摘の趣旨を踏まえ、「区民が知識・技術を習得できるよう、誰でも簡単に楽しく継続して学べるような学習・教育プログラムの提供を目指します」に修正いたします。
20	(2)について、「土のうの作り方、その他必要な知識・技術を講義と実技を交えて」と記載されているが、「土のうの作り方などを始めとして災害時の様々な場面を想定し、必要な知識・技術を講義やワークショップ、実技を交えて提供します。場合によっては被災地支援も行います。」としてはどうか。	ご指摘のとおり、例示した知識・技能は災害時の様々な場面を踏まえて提供することが重要です。また、講義や実技の他にも、適切な手段により提供することが必要であると考えています。このことから、「災害時の様々な場面を想定し、」を追記するとともに、「講義や実技など、様々な手法により提供します」に修正いたします。 なお、被災地への支援につきましては、被災地の状況により、実施方法や活動内容等を精査する必要があります。このため、今後の研究課題といたします。
21	(2)について、以下のとおり、本文の末尾に追加してはどうか。 「また、多くの区民がふだんから防災・減災に取り組むことができるよう、様々なアプローチを試み、普及・啓発に努めます。」	(2)につきましては「学習・教育」に関する項目として整理しています。このことから、ご指摘の趣旨を踏まえ、「(3) 調査・広報」について、「各種防災情報を提供するとともに、普及・啓発を行います」に修正いたします。
22	(3)について、以下のとおり、3行目の次に追加してはどうか。 「また、区民防災組織の活動を地域に紹介し、地域住民の参加をうながします。」	ご指摘の趣旨については、区民防災組織の活性化に資する内容であることから、「(4) 支援」に、「また、区民防災組織の活動を広く紹介し、区民の参加を促します」と追記いたします。
23	(3)について、「広報活動」の媒体に、「従来までの広報紙による配布、回覧板、掲示板への掲示に加え」を追加してはどうか。	広報活動の媒体として、ホームページやメールマガジンなどを例示として記載しています。区報への掲載や公設掲示板への掲示等につきましても、従来どおり、引き続き行ってまいります。

24	<p>(3)について、本文4行目に「訓練で利用できるツールや新たな訓練プログラムの構築、被災地の支援・視察による資料の収集・作成などの調査・研究活動を行います。」と記載されているが、「訓練で利用できるツールや、地域の災害特性に応じた訓練プログラムの構築のほか、被災状況、被災地支援、復旧・復興過程などの調査・研究活動を行います。」としてはどうか。</p>	<p>訓練プログラムの構築につきましては、地域の災害特性を踏まえたうえで、これまで実施してきたプログラムとは異なる、新しい視点でのプログラムの構築を行ってまいります。</p> <p>なお、被災地の支援・視察につきましては、被災地の状況により、実施方法や活動内容等を精査する必要があります。このため、今後の研究課題といたします。</p>
25	<p>(4)の本文について、以下のとおり、修正してはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域での防災活動への」を、「地域での防災・減災活動への」 ・「区民防災組織」を、「区民防災組織など」 ・「例えば、地域での防災活動に関する」を、「例えば、地域での防災・減災活動に関する」 ・「防災マニュアルの作成支援」を、「防災マニュアル・BCPの作成支援」 ・「啓発プログラムの提供」を、「啓発プログラムの提供、広報活動の支援などを行います」 	<p>ご指摘の趣旨を踏まえ、以下のとおり、修正いたします。なお、本計画では、読んだ方に分かりやすく理解していただくため、「防災」という用語を「減災」の概念を含めた広義の意味として、統一して使用しています。</p> <p>「地域での防災活動への支援を強化し、活動の活性化を目指します。</p> <p>区民防災組織などの活動を活性化するための知識・技術などを提供し、区民防災組織など防災に関わる様々な方々がいつでも活用できるようにします。</p> <p>例えば、地域での防災活動に関する各種相談の受付や、防災マニュアルの作成支援、新たな活動事例や訓練・啓発プログラムの提供などを行います。」</p>
26	<p>(5)について、本文3行目に「他の団体などの交流を目的に、地域交流会や合同防災訓練を開催します」と記載されているが、「他の団体などの交流・連携を目的に、地域交流会や合同防災訓練、イベント、研究会、ワークショップなどを開催します」としてはどうか。</p>	<p>ご指摘の趣旨を踏まえ、「また、区民防災組織間や他の団体などの交流・連携を目的に、地域交流会や合同防災訓練などを開催します」と修正いたします。</p>
27	<p>他の活発な活動事例を紹介してほしい。</p>	<p>「(4) 支援」に記載のとおり、カレッジでは、地域での防災活動に関する活動事例の提供を行います。</p> <p>なお、「また、区民防災組織の活動を広く紹介し、区民の参加を促します」を追記いたします。</p>
28	<p>大学生にとって、防災の取り組みが身近になっていない。広報のあり方を検討する必要がある。</p>	<p>「(3) 調査・広報」に記載のとおり、防災に対する関心を高めていただくため、ホームページやメールマガジンをはじめ、様々な媒体を使い、効果的な広報を検討してまいります。</p>
29	<p>活動に参加したくても、どのような活動が行われているかに関する情報が少ない。</p>	<p>防災活動への参加を希望する区民が、積極的に参加できるよう、取り組んでまいります。</p> <p>なお、ご指摘の趣旨を踏まえ、「(4) 支援」に、「また、区民防災組織の活動を広く紹介し、区民の参加を促します」を追記いたします。</p>

30	若いお母さんも参加できる仕組み作りが必要である。PTAIにも参加を呼びかけるとともに、もっと気軽に防災活動に参加できるようにしてほしい。	2ページの「2 基本方針」に記載のとおり、カレッジは「区民が、誰でもいつでも参加でき、学ぶことができる開かれた場」といたします。様々な世代や立場の方が、気軽にカレッジを訪れ、知識や技術を学ぶことができるよう、取り組んでまいります。
31	防災がどうしても必要なのかといったことを訴えていく必要がある。	2ページの「2 基本方針」に記載のとおり、これまで関心のなかった区民も気軽にカレッジを訪れ、知識や技術を学ぶことができるよう、取り組んでまいります。

第4 カレッジの運営

4 修了者の活動と支援

32	(2)の本文について、以下のとおり、修正してはどうか。 ・「地域で防災活動に取り組む際には、身につけたことを活かし、中心的な役割を担っていくことが必要です」を、「地域で防災活動に積極的に取り組む際には、身につけたことを活かし、中心的な役割を担っていくことが求められます」 ・「スムーズに」を、「円滑に」 ・「各種資料や知識・技術の提供を行います」を、「支援します」 (理由)この段階で、すべてのものが与えられて当たり前、受身、待ちの姿勢にならないように。	ご指摘の趣旨に沿って、以下のとおり、修正いたします。 「地域で防災活動に取り組む際には、身につけたことを活かし、中心的な役割を担っていくことが求められます。 カレッジ修了者が地域の防災活動プランを作成し、地域での防災講座や防災訓練を企画・実施するなど、地域の防災活動の中心となって活動する際に円滑に活動できるよう、各種資料や知識・技術の提供を行います。」
33	防災関係だけではなく、様々な団体を繋ぐネットワーク化が必要である。ネットワークを繋ぐコーディネーターを養成してほしい。コーディネーター同士が結びつくことによって、ネットワークは広がると思う。	8ページの(3)において、カレッジ修了者の活動に対し、「地域の中での連携づくりの役割を担えるように支援します」としています。カレッジ修了者が地域で活動する人たち同士の連携を図るコーディネーター役となれるよう、支援してまいります。

その他

34	カレッジ体系図(10ページ)に記載されている「ボトムアップ」「BCP」であるが、すぐに理解できるように言い換える事はできないか。広く区民に読んでもらいたいのので、子どもから高齢者まで、理解できる人の幅を広くしてもらいたい。	「ボトムアップ」につきましては、2ページの「2 基本方針」の(2)に記載の「防災に関心を持つ区民を増やし、その輪を広げる」ことを表したものです。しかし、より分かりやすく表記するため、10ページの「カレッジ体系図」の「研修」に記載の「2 新たな人材の発掘・育成・支援」として統合し、当該部分からは削除いたします。 また、BCPに関する記載につきましては、「BCP(事業継続計画)の確立」に修正いたします。
35	地震大国日本として、いつ発生しても不思議ではない状況の下で、学ぶべきは過去に何回も大震災に遭遇してきている事実と体験である。こうした教訓を十分に、丁寧に学んでほしい。	3ページの「3 機能」の「(3) 調査・広報」に記載のとおり、カレッジでは、区内外の各種防災情報を収集し、区民に発信する等、防災シンクタンク的な活動を行います。過去の災害の教訓につきましても、情報を収集し、調査・研究を行い、区民に発信することにより、防災活動に活かせるようにします。

36	<p>港区では、各家庭に緊急地震速報装置の購入費用助成制度を開始した。防災カレッジでは、都内各区が大震災にどのように対処しようとしているのかを、よく学ぶべきである。また、それとともに、大震災に対処するために、各区とどのように連携を図っていくべきか、よく検討してほしい。</p>	<p>3ページの「3 機能」の「(3) 調査・広報」に記載のとおり、カレッジでは、区内外の各種防災情報を収集することとしています。この中で、他区や自治体の防災施策についての情報収集も行うとともに、それを踏まえて他自治体との連携につきましても、区の施策として検討してまいります。</p> <p>なお、練馬区を含む特別区相互間において、「特別区災害時相互協力及び相互支援に関する協定書」を締結しており、大規模な地震等の災害が発生した場合には連携を図ることとしています。</p>
37	<p>大震災が発生すれば、交通機関がストップして、帰宅困難者や徒歩帰宅者で都内が大混乱を呈することも考えられる。帰宅困難者への対処についても、防災カレッジでよく検討してほしい。</p>	<p>2ページの「2 基本方針」に記載のとおり、様々な立場の方にカレッジに参加していただき、必要な知識や技術を学ぶことができるようにいたします。その中で、帰宅困難者対策も含め、区内外の各種防災情報を収集し、区民に発信するとともに、区の防災施策に活かせるようにいたします。</p>
38	<p>関東大震災と比べても、人口密度や建造物の密度は桁違いに大きくなっており、何倍もの大被害が生ずることが間違いないと想定される。発生する被害を最小限に留めることができるよう、対処法を構築すべく、カレッジで真剣に取り組んでほしい。</p>	<p>2ページの「1 目標」に記載のとおり、カレッジでは、一人でも多くの区民が、災害から自分や身近な人の生命を守ることができるように事業を進めてまいります。また、区の災害特性など各種テーマに基づいて調査・研究を行い、区民に発信するなど、区民の防災力の向上を図ります。</p>
39	<p>実状に十分にマッチし、役割を十分に果たせるよう、カレッジは用意万端、ぬかりなく進めて、開校してほしい。</p>	<p>区が直面している災害の現状を踏まえ、一人でも多くの区民が災害から自分や身近な生命を守ることができるよう、開校に向けた準備を、計画的に進めてまいります。</p>